



図 1-5 鋼橋の損傷マップ

(資料：国土交通省の資料をもとに作成)

表 1-4 鋼橋における欠陥（損傷要因）と点検箇所

損傷要因	点検箇所や現象
腐食、塗装劣化	桁端部（支承まわり、端横桁等）、継手部、排水管周辺、箱桁内部、アーチ・トラスの格点部
亀裂	ソールプレート前面溶接部、垂直補剛材溶接部、主桁ウェブ面外ガセット溶接部、鋼床版縦リブ溶接部、アーチ垂直材根元部
ゆるみ、脱落	リベットや高力ボルトによる継手部、F11T ボルトの遅れ破壊
変形、欠損	車道直上部
異常な音、振動	支間中央、桁端部（伸縮装置、支承部）

(資料：建設コンサルタンツ協会資料をもとに作成)

(3) 橋梁の点検

損傷が生じやすい箇所等を踏まえたうえで、現場では点検専用車や重機、足場を利用しながら、点検を行う。点検は、目視と打音、触診を主とする。次頁（図 1-6）に、橋梁における代表的な点検シーンを掲げる。